

聞いて！見て！触って！ 看取りのシミュレーションと身近な医療機器

2025年5月20日(火)・21日(水)、姫路メディカルシミュレーションセンターひめ mariaにて上記研修会を開催しました。看取りの経過やその支援についての講演後、シミュレーション人形や医療機器を実際に“聞いて 見て 触って”体験をしていただきました。2日間で計60名の医療・介護職の方々にご参加いただきました。

姫路市医師会 訪問看護ステーション 看護師

松本 恵美 氏に、事例も取り入れながら、看取りの経過と支援について分かりやすくご講演いただきました。

- * 看取り期の一般的な身体的変化や兆候を理解し、支援しましょう
- * 亡くなられていても119せず※1) 落ち着いて訪問看護等にご連絡ください
- * 生活支援で気付いた変化など、是非情報共有してください
- * (看取り期以前の)早い段階からのACP(人生会議)の関りが大切です

※1) 在宅看取り(施設も含む)の方針の場合

シミュレーション人形や医療機器を、五感を使って体験をしていただきました。
各ブースでは質疑応答が活発に行われていました！

人工肛門(ストマ装具)

ストマ関連物品も
実際に触って確認

在宅酸素

胃ろう(経管栄養)、
膀胱留置カテーテルも
体との接続部、
体内での構造まで、
人形で触って確認

口、鼻、気管切開の吸引

看取りのシミュレーション

【参加者アンケート回答より(一部抜粋)】

- ・講演を通して、必要時に訪問看護師へ連絡出来ることが分かり、安心感につながった
- ・介護職から訪問看護師へ情報提供する大切さや、ご家族が抱えている悩みなどを共有する重要性について学べた
- ・知識だけでなく、シミュレーションで実際の変化や医療機器を見ることで視覚的に勉強できたのはとても理解が深まった
- ・実際に医療器具(胃ろう、吸引、ストマ等)に触れたり、人形で確認したりすることで、今後のターミナルケアについて、事前の心構えに活かせると思いました
- ・亡くなるまでの過程を学び、患者様・ご家族様に対して、最期まで寄り添う大切さを改めて認識しました